

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2794700068		
法人名	社会福祉法人 豊悠福祉会		
事業所名	グループホーム祥雲館 (さくら)		
所在地	大阪府豊能郡豊能町吉川36番地の1		
自己評価作成日	平成 28年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 4月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 3月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を目指しており、全てのスタッフが行うのではなく、残存機能を生かすことを目的とし、出来る限り利用者の方と一緒に取り組んでいる。利用者=お客様ではなく、共に生活していく仲間として、常に利用者の方と接しています。サポーターの方とも協力し、地域に根差した施設を目指しています。又、和やかな生活空間を共に楽しむ！をユニット理念に掲げ、実践に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幅広い分野で介護保険事業を手掛ける社会福祉法人が運営するグループホームで、通所介護施設・短期入所施設を併設しています。和風平屋建物のホームは、居室やリビング、廊下がゆったりと広く、複数のソファやベンチ、談話室もあり、季節の花や調度品、装飾置物、手芸作品などを飾り、ゆとりと落ち着きを感じさせます。利用者は地域や学校のイベントに参加し、ホームを来訪する保育園児や小学生と楽しく交流し、美味しい食事や優しい職員の気遣いを感じ、医療的な不安もなく、穏やかな表情で過ごしています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週(月)の朝礼時、職員全員で理念の唱和を行っている。 理念の提示をしている。 経営基本方針を全職員に配布している。	法人の経営基本方針を基にして、グループホームの理念を「その人のこだわりを大切にし、思いに寄り添い、形にすることである」と定めて明示し、全職員に配布し携行しています。定例のグループホーム全体会議やユニット会議、毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の人たちと共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の幼稚園、保育園、小学校が来館してくれている。 地元のお祭りに出かけ、参加している。 定期的 Café を開催し、地域の方々との交流に努めている。	町内に唯一のホームとして地域に定着しています。法人全体で取り組む「介護教室」は毎月1回開催し、多くの地域からの参加があります。また3カ月ごとに開催する「笑雲カフェ」には毎回50名程度の参加があり、住民から介護のこと、近隣の高齢者のことなど気軽に相談が寄せられています。地区の小学校や保育園の児童がホームを訪問したり、地区の盆踊りなどに利用者が出向いていくなど、地域とホーム双方向での交流が行われています。法人の発行する広報誌は7,000部で町内に全戸配布し、地域に向けて、さまざまな情報発信をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎月1回、介護教室を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会、民生委員、家族の代表、役場の担当者の参加で、2ヶ月に1回、意見交換を行っている。            事故報告、ヒヤリハットについても報告をあげている。</p>	<p>「運営推進会議規則」に基づいて2ヶ月に1回開催しています。参加者は家族代表、地域自治会、民生委員児童委員の代表者や町の職員も参加しています。会議では行事のお知らせや報告、入退所の状況、苦情の報告など利用者の日々の暮らしの様子を伝える場となっています。管理者はより多くの家族に参加してもらえるように、介護の案内や報告を、毎月の「グループホーム便り」に掲載し、会議への参加を呼び掛ける準備をしています。</p>	<p>「運営推進会議規則」に参加者の守秘義務について規定を追加することが求められます。</p>
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、行政連絡事項等を尋ねたり、必要時連絡を行っている。</p>	<p>法人は地域の介護保険事業に幅広く参入し貢献をしています。管理者は町の担当職員とは報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。地域包括支援センターの認知症サポーター養成研修事業にも協力しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し、身体拘束についての知識習得に努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は法人の研修会や内部研修で、身体拘束や人権について研鑽し、意識を高めて身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関扉は内鍵になっており、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、虐待についての知識習得に努め心身に対する虐待のないケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書に添って個別に説明し、質問に答えている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b>            利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回、家族向けにケアに対するアンケートを実施し、改善に努めている。</p>	<p>毎年1回「家族アンケート」を実施しています。アンケートは利用者の住環境、安心安全面、自立支援、職業倫理性、相談援助、生活充実の6項目について家族の意見や要望を聞き取っています。アンケート結果は集計後、家族あてに郵送しています。アンケートで寄せられた個別の要望については職員の全体会議で報告・検討して、家族に回答しています。ユニットの玄関にはホームと家族との連絡用に「伝言メモボックス」が個別に設置されていますが、家族が意見や要望を出しやすいように「意見箱」の設置を現在検討しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>            代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議を開催し、現場の意見も反映して運営に努めている。            職員向けのアンケートを年1回実施している。            運営への意見反映に努めている。</p>	<p>職員は、定例のグループホーム全体会議やユニット会議、日常の業務を通じて、意見や提案をし話し合いができています。法人の事業方針で職員の転出入が多く、利用者や家族との良好な信頼と馴染みの関係への影響が出ないよう、管理者はベテラン職員と転入・新人職員とのチームワークの向上や介護技術の向上に取り組んでいます。また、管理者は、職員には定期的にアンケートを実施し、個人面談の機会を設けています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>            代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半年ごとに評価を実施。賞与に反映している。            個別面談を最低2回実施している。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>            代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>OJT による現場での実践力の習得に努めている。            各種、内部研修を実施し、知識や技術の習得に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学や見学者の訪問を設けたり意見交換などを行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人や家族からの聞き取りによって生活暦などを調べ、それを基に本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスを基に、家族にも相談し、訪問時などを利用して不安や疑問に感じている事などを吸い上げて行く事で信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りによって生活暦などを調べ、それを基に本人との信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声にみみを傾け、不安、苦しみ・喜びを知る姿勢を持ち、必要時に個別で対応していくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時、本人の様子を伝えながら、家族が不安に感じている事や困っている事などを吸い上げ、家族との関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣のスーパーなどに出かけ、本人の知り得る場所とのつながりを切らないよう努めている。	職員は、利用者が馴染みの散髪屋や近隣のスーパーに買物に出かけたり、家族と一緒に散歩や食事に出かけたり、家族と携帯電話で話すことなどを支援して、大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ストレスなく過ごせるよう、食堂テーブルや座席などを検討し、設定している。決まった場所に固定せず、誰とでも関りが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所により、連絡がとれていない。		
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方との対話の場面で、出来る限り声を拾って思いや意向を実現できるように心掛けている。	ホームでの暮らしの中で、利用者と家族から聞き取った思いや意向を、毎日のケア記録に記載し、カンファレンスで話し合い、情報の共有化に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族の方からの聞き取りにて以前の生活についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、ニーズは何かを考え、カンファレンスを実施し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b>                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントを行い、ニーズを確認し、計画を立て、実施している。                      家族を交えたサービス担当者会議を開催するようにしている。</p>	<p>介護計画は定期的には6カ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。カンファレンスを毎月開催し、利用者の状態の変化を把握しています。計画作成担当者は、毎月のまとめのモニタリングを行い、介護計画の見直しにつなげています。ただ、介護計画の個別援助項目に焦点をあてた日々の職員の介護記録やモニタリング結果がない状態になっています。</p>	<p>介護計画の個別の援助項目を職員に徹底するとともに、職員によるモニタリングの実施が望まれます。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b>                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録や日々の変化に柔軟に対応できるよう随時カンファレンスを行い、見直しを図っている。</p>	/	/
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b>                      本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>外部からのおしゃれ屋(散髪)を招いたり、その時に応じて他部署からの協力を依頼している。                      生活に必要な物があれば、家族と相談し、買い物に出かけている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のお祭りの参加や自治会での取り組みに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診に来て頂いている。 個々で主治医が違う為、Drと家族とも連絡を取りながら適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者の半数超が同一法人特養の診療所の医師の月2回の往診を受けています。その他の利用者は従来からのかかりつけ医で受診しています。歯科など、その他の医療機関への通院介助も必要に応じて職員が行っています。協力医療機関と連携し、緊急時対応についての体制も整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不調の兆しや訴えがあったとき、看護師に連絡し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に、入院時等、利用者の情報を提供したり、定期的に面会に訪れ、早期退院に結びつくよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で、定期的に研修を実施し、知識習得に努めている。	看取りを実施する方針を持ち、看取りの実績もあります。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。ただ、看取りの実施にあたっては、現在法人特養の看取り指針に従って実施しており、グループホーム独自の看取り指針がない状況になっています。	グループホームで看取りを実施する場合の看取り指針の作成が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に研修を実施し、知識習得に努めている。 各部署にマニュアル本を置き、緊急時にも対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地元消防署にも協力を依頼し、避難訓練を実施している。 地域の方にも参加して頂ける避難訓練も実施。	年2回、地域の住民にも参加してもらって、火災・災害避難訓練を実施し、内1回は消防署の指導のもとで行っています。災害時の食料と水の備蓄については、前回の訪問調査後法人本部だけでなく、ホームにも備蓄を実施する方向で準備が進んでいます。	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室。WC、浴室、居室などは本人が鍵をかけられるようにしている	職員は年間計画に従い、法人の接遇や人権の研修を受け、意識の向上に努めています。職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、丁寧で優しい雰囲気をもって接しています。	
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で吸い上げた要望など、できる限りレクリエーションや行事に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を大切にし、スタッフの都合に合わせてことなく支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、地元の散髪屋を利用したり、おしゃれ屋(訪問理容)に来て頂いたりしている。日中、夜間の更衣を行っている。 季節に合った衣類調整を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が分かるようにボードに記入したり、食事の盛り付けと一緒に手伝ってもらっている。 カレー・オムライス等の献立については、利用者と一緒に調理している	併設のデイサービス、ショートステイなどの事業所と合わせて調理済みの食事が届けられ、ご飯は毎食ユニットで炊飯しています。食事時は利用者は盛り付けや配膳などできることを手伝いながら、職員と共にテーブルを囲んで食事をしています。献立は法人の管理栄養士がたてており、利用者の献立希望があれば、献立に反映しています。毎月1回は手作りおやつの日があり、たこやきなど、利用者と一緒に作っています。食器は陶器を基本としており、利用者ごとに「マイお茶碗」が決まっています。外食も年に数回は実施しており、回転ずし、喫茶店、ハンバーガーショップなどへ出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、喫茶時等の摂取量を確認している。 管理栄養士とも連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に、歯磨き、うがいを促している。 義歯の方も同様に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握する為、チェック表を使って、自立支援に努めている。 適量の水分を摂取できるよう努めている。	排泄記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りにより、大半の人はトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化剤や下剤、薬草茶などを使い、コントロールしている。 出来る限り、自然排便を促すため、定期的な運動も促すよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々が入りたい気持ちを最優先できるように努めている。 個々のアプローチを徹底することで、入浴困難な方にも定期的に入浴を促している。	利用者は、朝風呂や夕食前に入浴も可能で、平均して週3回の入浴を楽しみ、ほとんど毎日入浴を楽しんでいる利用者もいます。入浴を好まない利用者には、タイミングの取り方の工夫や家族の協力も得て、少なくとも週1回は入浴ができています。ゆず風呂などの行事風呂も楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族の方にも協力を依頼し、物品を準備したりしている。生活リズムを基準に適時臥床を促したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服管理を行い、配薬時に個人名の確認と声かけを行い、安全・確実に服薬して頂けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活全般において、役割を持って頂き支援している。 個々にあったレクリエーションを提供するよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、散歩などを実施。 ベランダでの喫茶も適時実施している。	ホームの周辺は自然環境に恵まれており、四季の風景を感じながら日常的に散歩などの外出支援をしています。利用者が外に出たいという希望があれば、制止しないことを原則に、出来る限り付き添って出かけるようにしています。近隣にはコンビニなどの店舗がなく、ドライブを兼ねて買い物にも出かけています。気候的に外出が困難な時期は日当たりの良いベランダで日光浴を兼ねて「喫茶」タイムが開かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の方の希望でお金を所持されている方もおられる。 買い物と一緒に出かけることも実施している。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話使用の希望があれば対応している。 手紙についても随時対応できるよう準備している。</p>		
52	19	<p><b>○居心地のよい共有空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1人1人が不快にならないようテーブルの配置を考え、随時変更している。 浴室は、自立して入浴できるよう支援している。</p>	<p>和風で平屋建物のホームは季節感のあふれる緑豊かな山々や田畑に囲まれています。共有空間は全体的に落ち着いた木目調でゆったりとしていて、ゆとりと落ち着きがあります。また、個性的な調度品や装飾置物、季節の生花が飾られ、書道や手芸作品、行事写真、アルバム、書籍、観賞用の魚のいる水槽、キーボードなどが置かれ、利用者がくつろげる複数のソファやベンチ、談話室もあり、ホームの細かい配慮と気遣いを感じさせます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも談話スペースを設け、その時に応じた空間を自己決定できるよう配慮している。 ユニット固定ではなく、流動的に活用するように心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて温度調節を行い、清潔感を保つことにより、居心地のよい空間作りに努めている。 家族にも協力を依頼し、使い慣れた物等を持参して頂いている。	各居室の前の棚には、家族や利用者が好みの装飾置物や手芸作品を飾っています。居室には整理ダンス、机、椅子、飾りテーブル、ソファなどが置かれ、昔のブリキ製のおもちゃや置物、手芸作品、家族写真、花、好きなプロ野球選手の写真、書籍、外出用の洋服や帽子など、個性的で居心地の良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルや椅子の高さにも配慮し、自立支援に努めている。 利用者間のトラブル防止の為、WC・居室の表札などに工夫をしている。		